

社会福祉法人多度志保育会

たどし認定こども園かぜっこ ・ 多度志学童クラブ

2022年度 自己評価の公表

【評価基準】 A:かなりできている B:ほぼできている C:あまりできていない D:ほとんどできていない

1 保育の方法・内容 評価点				
・養護	A	B	C	D
○一人ひとりに丁寧に対応し優しい態度で語りかけ、心を込めて保育をしている	6	7	1	
○子ども一人ひとりの発達状況と子どものおかれている事情を理解し、保育をしている	6	6	1	
○自分の気持ちをうまく表現できない子どもの心情をくみ取ろうとしている	6	7	1	
○虐待やネグレクト、栄養状態について気をつけて見ている	4	6	3	
・健康				
○子どもの生活を1日サイクルでとらえ、無理なく過ごせるよう配慮している	5	5	3	
○外遊びや散歩など戸外で遊ぶ機会を多く取り入れている	7	5	1	
○排泄に際して、子どもが自ら進んで行けるような配慮や工夫をしている	4	7	2	
○衣服の着脱に際して、子どもの意欲を大切に、着脱しやすいよう配慮している	4	7	2	
○安心して眠りにつける配慮や眠くない子どもへの配慮をしている	5	6	2	
○子どもの病気やアレルギーについて、確認・対応を行っている	7	3	3	
・人間関係				
○相手の気持ちがわかるような声かけや援助を行っている	4	8	1	
○発達段階に応じて、ルール(きまり)の大切さを伝える工夫をしている	3	9	1	
○他の保育者や園内外の色々な人との交流が持てるよう工夫している	2	9	2	
○ケンカ、仲直りの過程を丁寧に応援し、自ら人間関係を作る工夫をしている	3	9	1	
○自分が周りの人から大切にされて育ってきたことを知る機会をつくっている	2	10	1	
・保育姿勢				
○生活リズムが身に付くよう、くりかえし話したり行動している。	4	7	2	
○「早くしなさい」とせかすことばや「だめ」など制止や禁止のことばを不必要に用いない	3	5	5	
○個の発達段階によって目標を定め、個に合わせて支援をしている。(個にあった手助け)	4	6	3	
○一人ひとりの子どもに合わせた、見通しをもった関わりをしている	5	6	2	
○保育の可能性を追求し、外遊びや新しい保育材料の導入などを積極的に取り入れている	2	5	5	1
・環境				
○子どもの発達を促すための玩具や遊具を用意している	4	3	4	2
○身近な自然に興味・関心が持てるよう工夫している	5	6	1	1
○身近な動植物との触れ合いの中で、生命の尊さに気づくようにしている	2	10		1
○保育室の換気や温度・湿度に配慮して保育している	5	6	2	
○保育室の整理整頓に努め、いつも気持ちのよい環境づくりを心がけている	2	8	2	
○常に遊具の安全確認を行い、定期的に洗浄・消毒をしている	4	8		
○子どもの姿を見ながら、臨機応変・計画的な環境づくりを心がけている	3	7	2	
・言葉				

○ 読み聞かせの時間を大切にしている	4	7	1	
○ 子どもが話しやすい雰囲気作りを心がけている	6	5	2	
○ 子どもの言葉にしっかり耳を傾けている	6	6	1	
○ 会話を通じて気持ちが通い合う喜びを味わえるよう配慮している	6	6	1	
○ 子どもとの対話で嘘をつかない	7	6		

・表現

○ 泥、砂、水など自然の素材に触れて楽しむ機会を多くもっている	7	6		
○ 言葉、絵、造形、音など、子どもが見たもの感じたものを表現することを大切にしている	6	6	1	
○ 自由に表現できる環境作りを心がけている	4	7	1	
○ 素材や用具を子どもが自由に取り出せる場所に置くなどの工夫をしている	5	6	2	
○ 道具の正しい使い方を、一人ひとり丁寧に教えたり、見守ったりしている	4	6	2	1
○ 自由あそびに制限を加えたり、理由なく禁止していない	4	7	3	
○ 一方的に教えたり、タネ明かしをせず、子どもの気づきを大切にしている	3	8	2	

・食

○ 楽しい雰囲気、食材の感触、食べるリズム、好き嫌いの克服に配慮している	5	7	1	
○ 衛生に気を付け、一人ひとりが配膳や食事準備、片付け出来るか配慮している	5	6	2	
○ 時には様々な場所で食べるなどの工夫をしている	6	4	3	
○ 食育計画に応じ、野菜が育つ過程を経験したり、野菜を調理して食べる取り組みをしている	3	6	4	
○ 調理している場面を見せたり、食に関心が向くような取り組みをしている	3	4	6	
○ 家庭での食事状況を把握している。必要に応じて家庭に対して助言している	2	7	3	1

・保育全般

○ 園の保育方針を理解して実践しようと努めている	5	6	2	
○ 年間保育目標を意識して保育に取り組んでいる	4	7	2	
○ クラスで立てた目標を常に意識して行動している	4	6	3	
○ 子どもの人権への配慮や、互いを尊重する心を育てるための具体的な取り組みを行っている	2	8	3	
○ 保育者(自分)自身が積極的に子どもと関わり、遊んでいる	7	6		
○ 自分が目指す保育者像がある	2	8	3	
○ 保育に関わる知識や技術の向上に努めている	3	6	4	
○ 保育者の人間性を豊かにするために自己研鑽している	2	7	4	

2 発達援助の基本

・保育計画の作成

○ 園の保育方針を理解して、保育計画を立てた	4	7	1	1
○ 園の保育目標を理解して、クラスの年間保育目標を立てた	4	7	1	1
○ 担任・担当で話し合い、子どもに合わせた目標を立てた	5	7		1
○ 子どもの発達の姿、興味・関心に基づいて保育計画を立てた	5	6	1	1
○ 計画を作成する際、個別の対応について配慮している	3	7	1	1
○ 計画のねらいや内容を他の保育者や保護者にわかるように説明している	3	5	4	1

・個人記録の作成など

○ 担当している子どもの個人記録を作成している	3	5	4	1
○ 保育計画が適切であったか振り返り、改善している	4	5	4	
○ 子どもの個人記録に基づく情報を、その子どもに関わる他の職員と共有している	4	5	2	1

・職員間の連携

○自分の役割、主任、フリーの役割を理解している	4	4	5	
○子どもの体調不良や怪我などの情報を共有している	5	6	2	
○保育の課題・問題点を共有し園全体で考えられるよう取り組んでいる	3	7	2	1
○適切でない対応をしている他の職員の行為を目にした時、助言している	2	3	7	
○緊急時(自然災害や救急、不審者侵入など)の対応について理解している	3	6	2	2
○職員会議などで、積極的に発言している	2	7	3	1
○新採用職員や後輩に対し、温かい人間関係をつくるようにしている	4	6	3	
・保護者支援				
○『保護者の子育てを支援する』という役割を常に意識している	4	5	4	
○子育てに対する不安や悩みを受け止め、適切に助言・援助している	3	5	4	1
○子育てについて、共感し支え合える保護者同士のつながりに配慮している	2	6	4	1
○相談は記録し、継続的な支援をしている	4	6	2	1
・地域保育所機能の開放				
○地域の方々が気軽に保育所を利用できるよう努めている	3	3	5	2
○実習生を受け入れる時は、その目的や意義を理解し指導的立場であることを意識している	4	5	2	1

<p>【自己の保育で取り組みが不十分・取り組めなかったこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経験が少なく、自己の保育の評価をどう考えたらよいかわからない。 ・年齢にこだわらずに保育をしてきたが、一人ひとりに合った保育だったのか疑問に思うことがあった。 ・子ども目線で考えられない自分がある。せかしたりしてしまう。 ・遊びがマンネリ化しないようにと思うが難しい。 ・学童：宿題優先で口うるさくなってしまった。自主的な取り組みへの関係が希薄だった。 ・けがの対応に遅れることがあった。どう行動するとよいのか考えたい。 ・給食中の様子を見に行くことが少なかった。 ・遊びの工夫（導入・発展・連続性）にうまく取り組めなかった。 				
<p>【自己の保育で充実した取り組みが出来たと思うこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戸外活動でのびのび体を動かし、楽しく過ごすことができた。 ・学童：積極的に手作りおやつを提供ができた（お味噌汁など）、個々に合わせた配慮を考えて努めた。 ・日々の保育や研修を通し、子どもの人権、利益を考えるようになり、大切にできた。 ・ありがたいの木は来年度も続けたい。 ・自身も楽しんで遊べた。子ども同士のつながり、成長を感じられた。 ・子どもとの関係を深めることができた。 ・バイキング・おにぎりなどの取り組みを月1回できた。 ・気持ちを受け止めること、生活リズムを大切にすること、笑顔で対応すること、否定せず人格を尊重すること。 				
<p>【今後、保育のなかで取り組みたいこと 新たな導入・チャレンジしたいこと】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戸外活動をもっと充実させたい。 ・年齢に応じた保育を学びたい。 ・習字が楽しかったようだ。書初め以外にも取り入れたい。 ・1日1回はみんなと話をしたい。 ・先生方との連携を図りたい。 ・子どもが求めていることに気づき、サポートしていきたい。 				
<p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己解決したり、他者に相談できないことがあった。 ・保護者との保育に関する考えのズレ、方向性の違いをどう解決していったらよいのか。一緒に成長を喜び合える、良いこと・悪いことを伝えあえるようにしていくにはどうしたら良いのか。 ・学童：子どもが自分で気づいて行動できていると嬉しかった。安全への見守り、気持ちの受け止め、自主的な行動への声かけが大切だと思った。 				